

特殊肥料が生産可能となり、農家や地域住民から配布希望が殺到している。

#### 4. リサイクルの実現

富士通では単に肥料化に留まらず、農家と連携したリサイクルシステムを構築し運用している。ネットワークはできる限り地域密着型としているが、東京近郊などの大都会では、遠隔地農事組合法人と連携した大規模リサイクルネットワークを構築している。写真-2は長野県にある富士通りサイクル農場である。

リサイクルシステムの事例を富士通の最大事業所である川崎市中原区の川崎工場を例に説明する。この事業所では1日に約650kgの生ごみが発生し、約160kgの肥料を生産している。肥料は近隣の2戸の契約農家、長野県の農事組合法人に提供し、コマツナ、レタス、キャベツ、ハクサイなど年間約50tの野菜を社員食堂の食材として購入し、また毎週金曜日には従業員へ直接販売をしている。新鮮で非常に味が良く、人気を集めている。リサイクルの概略を図-1に示す。

そのほか、家庭菜園や花作りを行っている約20軒の近隣住民への提供や、地域で開催される各種イベントで参加者への配布等を行っており、富士通の環境保全取組みのアピールにも一役買っている。

同様の肥料化・リサイクルを全国の富士通グループ各事業所で展開している。図-2はその状況を地図上に示したものである。



写真-1 袋詰めした肥料「のびのびグリーン」



写真-2 富士通りサイクル農場  
長野県・北佐久園芸農事組合法人

#### 5. その他の取組み

生ごみ以外のゼロエミッションの取組みとして、以下の事例を紹介する。

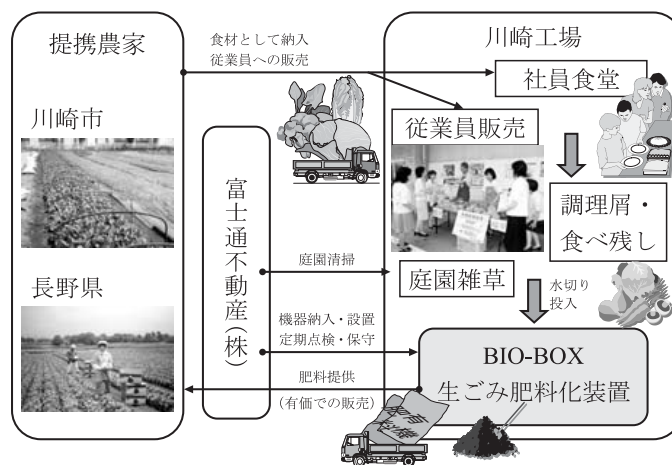


図-1 富士通川崎工場における生ごみのリサイクルシステム